エコプロダクツ2015

環境配慮型社会について考えよう

ウォームビズ 来年3月末まで

冬の節電は夏の対策よりも省エネ、CO_2排出削減効果が高いといわれている。環境省が冬の地球温暖化対策の一つとして05年から推進しているのが、暖房時の室温を20度Cの設定で過ごすことができるライフスタイルの「WARM BIZ（ウォームビズ）」だ。「寒いときには着る」「部屋全体の空気を対流させる」「夜間はブラインドをおろす」といった工夫などで、過度に暖房機器に頼らないスタイルを推進していこうという取り組みである。15年度は11月1日からスタートしており、16年3月31日までがウォームビズ期間となる。

一方、地方自治体では「ウォームビズ」や省エネ、節電を広く呼びかけていくほか、セミナーやイベントを開催し、地球温暖化防止の周知を図っていく。

埼玉県は簡単なチェックシートを利用して省エネ・省資源など環境に配慮した生活を行うことによりエコライフを体験し、ライフスタイルの見直しをすることができる「エコライフDAY（デイ）埼玉」を12月1日から16年3月31日まで実施する。また、新潟県が「エコドライブ運動」、福山市が「家庭の省エネ診断」、宇部市が暖かい場所をみんなでシェアするWARM SHARE（ウォームシェア）の推進となる「まちなか暖暖地」開設などの取り組みが行われる。

きょう開幕 12日まで東京ビッグサイト

日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2015」がきょうから12日までの3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催される。主催は産業環境管理協会と日本経済新聞社。17回目となるエコプロダクツの開催テーマは「わたしが選ぶクールな未来」。地球温暖化が緩和された「クール（涼しい）」な未来を選択するために、「クール（格好良くて素敵）」なエコプロダクツとエコライフに関する最新情報を提供する。開場時間は10時から18時（最終日は17時まで）。入場料は無料だが登録が必要。

幅広い分野から出展

3R活動・バイオマス 製紙業界の取り組みも

エコプロダクツに出展するのは約700社・団体。自治体から業界団体、NPOやNGO、教育・研究機関、そして民間企業などと幅広い。民間企業も商社や金融関係から、自動車、産業機械、家電、住宅、化学、繊維、さらには製紙産業に至るまで、さまざまな分野、業界が参加することができる「カーボンニュートラル」という特徴があるからだ。

持続的発展可能な循環型社会の形成、地球温暖化の防止を進めていく上で、バイオマスの利活用は重要な取り組みの一つである。バイオマスには二酸化炭素（CO_2）の発生と固定を平衡し、地球上のCO_2を一定量に保つ・リユース（排出抑制）・リユース（再利用）・リサイクル（再資源化）という3R活動の推進にも早くから取り組んできた。その結果、日本は世界でもトップクラスの古紙回収率、古紙利用率を誇る。日本製紙連合会の調べによれば2014年度の古紙回収率は80・8%で、紙・板紙合計の古紙利用率は63・9%。日本は製紙産業におけるリサイクル先進国だといえる。

木を育て、育てた木を木質材料として無駄なく活用している製紙業界はバイオマスに関して多くのノウハウを持っている。また、リデュース（排出抑制）の利活用は重要な取り組みの深い「木」「森」の保全、利活用への取り組みなどを紹介する。

今回もエコプロダクツには王子グループ、日本製紙グループ、大王製紙といった製紙業界のリーディングカンパニーや印刷関連メーカーといった、紙と紙に関連した産業界が出展。自社の環境負荷低減への取り組みやノウハウ、そこで培った基盤技術の応用を紹介するほか、製紙業界とかかわりの深い「森」への取り組みなどを紹介する。

環境省は地球温暖化対策国民運動「COOL CHOICE」などをテーマに展示（昨年の環境省展示ブース）

森林をテーマにした企画展示「森林からはじまるエコライフ展2015」も行われる（昨年の同テーマブース）